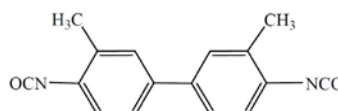
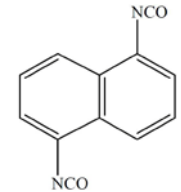
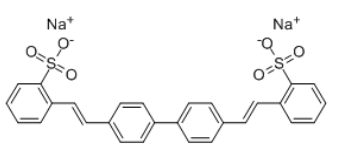
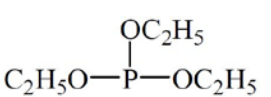
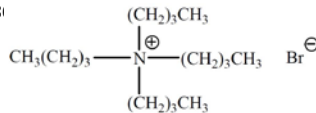
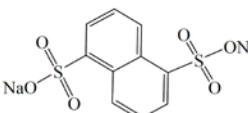
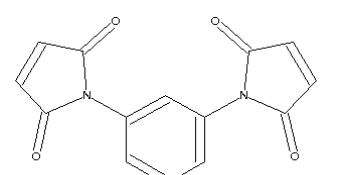
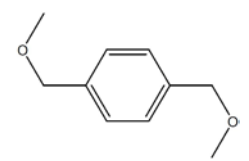
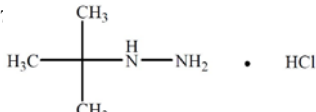
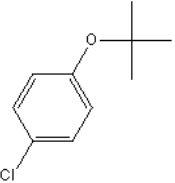
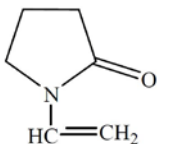

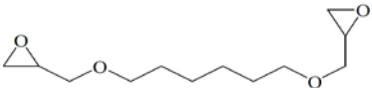


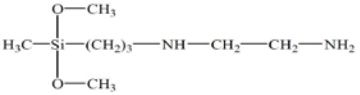
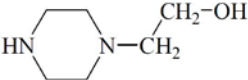
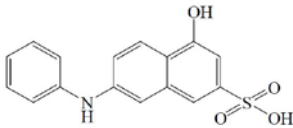
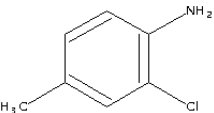
## 平成24年7月 既存化学物質点検(分解・蓄積)結果資料 (第118回審査部会)

K番号	物質名 (CAS No.) 官報公示整理番号	分解性	分配係数 (log Pow)	濃縮度試験	判定結果 (内は既判定)
822	4, 4' -ジイソシアナト-3, 3' -ジメチルビフェニル (91-97-4) 4-33 	分解度試験(化審法テストガイドライン:28日間) BOD分解度:0%(-3,-2,-5)(基礎呼吸区2.3mg,汚泥区平均2.5mg) GC分解度:4%(3,3,6) ①汚泥区で被験物質の大部分が残留しているが、ごく一部が変化して被験物質が重合し高分子化した微量の不溶性変化物を生じている。 ②水区汚泥区ともに生成が予想されたo-トリジン(9-882:難分解,低濃縮)は検出されていない。 ③対水溶解度<100mg/L	-	-	難分解性
831	1, 5-ジアミノナフタレン (3173-72-6) 4-527 	分解度試験(化審法テストガイドライン:28日間) BOD分解度:0%(-11,-9,-10)(基礎呼吸区11.1mg,汚泥区平均4.6mg) GC減少率:63%(80,56,54) 1,5-ジアミノナフタレン生成率(GC):13%(16,12,10) ①汚泥区において被験物質の一部が分解し、1,5-ジアミノナフタレン(4-323:難分解性,低濃縮性)が平均13%生成するとともに、1,5-ジアミノナフタレン(変化物)及び残留(平均37%)した被験物質が重合し高分子化した変化物が生成している。なお、物質収支が不足する原因については、高分子化した変化物の生成によるものと考えられる。 ②汚泥系のBOD値が汚泥ブランクよりも低くなったことについて、被験物質がイソシアナートであるため、活性汚泥に対する阻害性が原因と考えられる。 ③対水溶解度<100mg/L	-	-	難分解性
1222	ジナトリウム=2, 2' - (ビフェニル-4, 4' -ジイルジエテン-2, 1-ジイル)ビス(ベンゼンスルホナート) (27344-41-8) 5-4880 	分解度試験(化審法テストガイドライン:28日間) BOD分解度:3%(3,1,5)(基礎呼吸区5.7mg,汚泥区平均7.2mg) DOC分解度(汚泥吸着補正值):3%(5,3,2) HPLC分解度(汚泥吸着補正值):3%(5,6,-3) ①被験物質は活性汚泥に吸着性があり汚泥区の回収率が83%であったため、DOC分解度について純度及び汚泥吸着による補正、HPLC分解度については汚泥吸着による補正を行っている。 ②対水溶解度 $9.7 \times 10^3$ mg/L	-	-	難分解性
1438	亜リン酸トリエチル (122-52-1) 2-2904 	分解度試験(OECDTG 302C:28日間) BOD分解度:119%(117,135,105)(基礎呼吸区21.3mg,汚泥区平均41.2mg) DOC分解度:73%(75,71,71) GC減少率:100%(100,100,100) ①汚泥区にて被験物質は完全に消失し、亜リン酸モノエチル(2-1995)が平均55%、亜リン酸(1-421)が平均43%生成している。また、亜リン酸の一部は酸化されてリン酸(1-422)が生成している。 ②対水溶解度 $\geq 100$ mg/L  ※平成18年7月21日開催第56回審査部会審議結果(保留) 分解度試験(OECDTG 301C:28日間) BOD分解度:75%(78,74,74)(基礎呼吸区9.5mg,汚泥区平均51.1mg) DOC分解度:86%(89,85,86) GC減少率:100%(100,100,100) ①被験物質は水中で変化する。亜リン酸ジエチル(2-2001),亜リン酸モノエチル(2-1995),亜リン酸(1-421)及びリン酸を生成し、残留した。	-	-	良分解性

K番号	物質名 (CAS No.) 官報公示整理番号	分解性	分配係数 (log Pow)	濃縮度試験	判定結果 (0内は既判定)
1866	テトラブチルアンモニウムブロミド (1643-19-2) 1-105 / 2-18 	分解度試験(化審法テストガイドライン:28日間) BOD分解度:2%(2,2,1)(基礎呼吸区5.8mg,汚泥区平均7.2mg) DOC分解度:0%(-2,-1,-1) HPLC分解度:0%(0,0,0) ①対水溶解度 $\geq$ 100mg/L	-	-	難分解性
1867	二ナトリウム=ナフタレン-1,5-ジルスルホナート (1655-29-4) 4-468 	分解度試験(化審法テストガイドライン:28日間) BOD分解度:0%(-1,-2,0)(基礎呼吸区4.8mg,汚泥区平均4.4mg) DOC分解度:7%(6,7,6) HPLC分解度:0%(0,0,0) ①対水溶解度 $\geq$ 100mg/L	-	-	難分解性
1870	1,1'- (1,3-フェニレン)ビス(1H-ピロロール-2,5-ジオン) (3006-93-7) 5-3379 9-2054 	分解度試験(化審法テストガイドライン:28日間) BOD分解度:5%(3,5,7)(基礎呼吸区4.4mg,汚泥区平均7.2mg) DOC分解度:9%(10,10,7) HPLC残留率:0%(0,0,0) 1,3-フェニレンジアミン生成率(HPLC):2%(2,2,1) ①汚泥区にて被験物質は残留せず、1,3-フェニレンジアミン(変化物,3-185)の生成率は平均2%、生成が予想されたマレイン酸(2-1100:良分解性)は生分解されたと考察している。 ②汚泥区のLC-MS分析で検出されたマレイン酸及び1,3-フェニレンジアミン以外の変化物ピークについては、4,4'-(ベンゼン-1,3-ジイルジイミノ)ビス(4-オキソプター-2-エン酸)と推測している。なお、4,4'-(ベンゼン-1,3-ジイルジイミノ)ビス(4-オキソプター-2-エン酸)は標品がないため定量はできていないが、TOC溶存率及び1,3-フェニレンジアミン生成率から90%程度の生成と示唆される。 ③対水溶解度<100mg/L	-	-	難分解性
1872	1,4-ビス(メキシメチル)ベンゼン (6770-38-3) 3-2883 	分解度試験(化審法テストガイドライン:28日間) BOD分解度:3%(2,3,3)(基礎呼吸区9.4mg,汚泥区平均11.4mg) DOC分解度:5%(5,4,4) HPLC分解度:0%(-1,-1,-1) ①対水溶解度 $\geq$ 100mg/L	-	-	難分解性
1874	tert-ブチルヒドラジン塩酸塩 (7400-27-3) 1-215/2-336 	分解度試験(化審法テストガイドライン:28日間) BOD分解度:0%(-3,-4,-4)(基礎呼吸区9.0mg,汚泥区平均6.5mg) DOC分解度:0%(-2,-2,-3) LC-MS分解度:0%(-1,0,-1) ①対水溶解度 $\geq$ 100mg/L	-	-	難分解性

K番号	物質名 (CAS No.) 官報公示整理番号	分解性	分配係数 (log Pow)	濃縮度試験	判定結果 (0内は既判定)
1878	1-tert-ブトキシ-4-クロロベンゼン (18995-35-2) 3-845 	分解度試験(化審法テストガイドライン:28日間) BOD分解度:0%(-4,-4,-5)(基礎呼吸区4.7mg,汚泥区平均1.8mg) HPLC分解度:2%(6,1,0) ①対水溶解度<100mg/L	-	-	難分解性
2021	N-ビニル-2-ピロリドン (88-12-0) 5-114 	分解度試験(化審法テストガイドライン:28日間) BOD分解度:1%(1,2,1)(基礎呼吸区7.3mg,汚泥区平均8.3mg) DOC分解度:3%(3,2,2) HPLC分解度:1%(2,0,1) ①対水溶解度≥100mg/L	-	-	難分解性
2022	シアナミド (420-04-2) 1-139 $H_2N-C\equiv N$	分解度試験(化審法テストガイドライン:28日間) BOD分解度:0%(-1,-1,-2)(基礎呼吸区4.4mg,汚泥区平均3.1mg) DOC分解度:0%(0,0,0) LC-MS分解度:1%(1,1,1) ①対水溶解度≥100mg/L	-	-	難分解性
2023	tert-ドデカンチオール (25103-58-6) 2-464 $(tert-C_{12}H_{25})-SH$	分解度試験(化審法テストガイドライン:28日間) BOD分解度:2%(4,1,0)(基礎呼吸区9.3mg,汚泥区平均10.7mg) GC減少率:9%(2,16,8) ①被験物質残留率ばらつきが生じたため、ソーダライムを分析したところ、被験物質の検出率は1%~5%であった。 ②対水溶解度<100mg/L	-	-	良分解性
2025	1,3-ジオキサラン (646-06-0) 5-500 	分解度試験(化審法テストガイドライン:28日間) BOD分解度:2%(2,-1,4)(基礎呼吸区6.3mg,汚泥区平均7.1mg) DOC分解度:1%(1,1,0) GC分解度:0%(0,1,-1) ①対水溶解度≥100mg/L	-	-	難分解性
2033	2,2'-[ヘキサン-1,6-ジイルビス(オキシメチレン)]ビス(オキシラン) (16096-31-4) 2-396 7-1280 	分解度試験(化審法テストガイドライン:28日間) BOD分解度:32%(39,26,31)(基礎呼吸区8.1mg,汚泥区平均28.6mg) DOC分解度:25%(32,18,26) LC-MS減少率:100%(100,100,100) ①汚泥区において一部の被験物質は生分解され、定性分析により被験物質の加水分解及び酸化によって生成した変化物7種の生成が確認されている。 ②対水溶解度≥100mg/L	-	-	難分解性

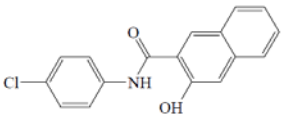
K番号	物質名 (CAS No.) 官報公示整理番号	分解性	分配係数 (log Pow)	濃縮度試験	判定結果 (0内は既判定)
2034	1, 2-ジメトキシエタン (110-71-4) 2-421 7-1321 	分解度試験(化審法テストガイドライン:28日間) BOD分解度:1%(1,0,1)(基礎呼吸区6.8mg,汚泥区平均7.3mg) DOC分解度:0%(-1,0,0) GC分解度:1%(-1,3,0) ①対水溶解度 $\geq$ 100mg/L	-	-	難分解性
2036	3, 6, 9-トリオキサウンデカン (112-36-7) 2-433 7-1321 	分解度試験(化審法テストガイドライン:28日間) BOD分解度:0%(1,0,-1)(基礎呼吸区8.6mg,汚泥区平均8.6mg) DOC分解度:0%(-3,2,-1) LC-MS分解度:0%(0,0,0) ①対水溶解度 $\geq$ 100mg/L	-	-	難分解性
2037	1-[[1-[(1-メキシプロパン-2-イル)オキシ]プロパン-2-イル]オキシ]プロパン-2-オール (20324-33-8) 2-438 	分解度試験(化審法テストガイドライン:28日間) BOD分解度:0%(-2,-1,-1)(基礎呼吸区10.1mg,汚泥区平均9.2mg) DOC分解度:0%(0,-2,-2) (ピーク1)LC-MS分解度:15%(17,16,12) (ピーク2)LC-MS分解度:7%(9,7,5) ①被験物質は不斉炭素有し、異性体が存在する。異性体はLC-MSクロマトグラム上では2本のピークとして検出されたため、ピーク毎に分解度を算出している。 ②汚泥区において被験物質の一部は微生物の作用により変化し、定性分析で検出された2成分の変化物が生成している。生成した変化物及び残りの被験物質は生分解されなかった。 ③対水溶解度 $\geq$ 100mg/L	-	-	難分解性
2038	2-イソプロトキシエタノール (4439-24-1) 2-2424 2-407 	分解度試験(化審法テストガイドライン:28日間) BOD分解度:14%(14,16,13)(基礎呼吸区5.3mg,汚泥区平均15.4mg) DOC分解度:14%(11,20,11) LC-MS分解度:84%(84,84,83) ①汚泥区において、一部の被験物質は生分解されたが、大部分は2-イソプロトキシ酢酸に変化している。また、2-イソプロトキシ酢酸は残りの被験物質とともに残留している。 ②対水溶解度 $\geq$ 100mg/L	-	-	難分解性
2039	3, 5-ジメチルフェノール (108-68-9) 3-521 4-57 	分解度試験(化審法テストガイドライン:28日間) BOD分解度:0%(0,0,0)(基礎呼吸区3.7mg,汚泥区平均0.8mg) HPLC分解度:1%(1,1,1) ①対水溶解度 $<$ 100mg/L	-	-	難分解性

K番号	物質名 (CAS No.) 官報公示整理番号	分解性	分配係数 (log Pow)	濃縮度試験	判定結果 (0内は既判定)
2040	N-[3-[ジメチル(メチル)シリル]プロパン-1-イル]エチレンジアミン (3069-29-2) 2-2084 	分解度試験(化審法テストガイドライン:28日間) BOD分解度:21%(21,21,20)(基礎呼吸区5.5mg,汚泥区平均20.5mg) DOC分解度:25%(25,25,26) ①水区内において、被験物質は加水分解し、理論量のメタノール(2-201:良分解性)及びシラノール体(N-[3-[ジヒドロキシ(メチル)シリル]プロパン-1-イル]エチレンジアミン)生成が確認されている。 ②汚泥区では、シラノール体が理論量生成したが、水区内で生成が確認されたメタノールは検出されていない。 ③DOC実測値がメタノールのDOC理論値とほぼ一致したため、メタノールは生分解されたと考えられる。	-	-	難分解性
2042	2-(ピペラジン-1-イル)エタノール (103-76-4) 5-957 5-3833 	分解度試験(化審法テストガイドライン:28日間) BOD分解度:3%(3,2,3)(基礎呼吸区4.7mg,汚泥区平均6.7mg) DOC分解度:2%(4,3,1) LC-MS分解度:0%(0,-3,-6) ①対水溶解度 $\geq 100$ mg/L	-	-	難分解性
2044	7-アニリノ-4-ヒドロキシナフタレン-2-スルホン酸 (119-40-4) 4-536 	分解度試験(化審法テストガイドライン:28日間) BOD分解度:0%(-2,2,-1)(基礎呼吸区3.8mg,汚泥区平均3.6mg) DOC分解度:2%(3,2,2) HPLC分解度:0%(1,0,0) ①対水溶解度 $\geq 100$ mg/L	-	-	難分解性
2045	2-[(2-エチルヘキサン-1-イル)オキシ]エタノール (1559-35-9) 2-2424 	分解度試験(化審法テストガイドライン:28日間) BOD分解度:49%(48,46,53)(基礎呼吸区6.9mg,汚泥区平均46.1mg) DOC分解度:53%(51,47,62) GC分解度:100%(100,100,100) ①汚泥区にて被験物質は生分解され消失したが、分解中間体(2物質)が残留し、完全分解に至らなかった。 ②対水溶解度 $< 100$ mg/L	-	-	難分解性
2046	2-クロロ-4-メチルアニリン (615-65-6) 3-265 	分解度試験(化審法テストガイドライン:28日間) BOD分解度:0%(0,0,0)(基礎呼吸区4.0mg,汚泥区平均3.2mg) DOC溶存率:80%(78,80,81) HPLC残留率:79%(77,79,79) ①BOD分解度が0%であるにもかかわらず、HPLC残留率及びDOC溶存率が8割程度となったことについて、被験物質の揮発が疑われた。そのため分解度試験条件下における培養液の被験物質残存と溶存有機炭素を測定した結果と密閉系における培養結果と比較したところ、被験物質は分解度試験条件下にて徐々に揮発すると考えられる。	-	-	難分解性
2048	イノキノリン (119-65-3) 5-3758 	分解度試験(化審法テストガイドライン:28日間) BOD分解度:0%(1,-1,-1)(基礎呼吸区5.8mg,汚泥区平均5.5mg) DOC分解度:0%(-1,0,-2) HPLC分解度:0%(-3,-3,-4) ①対水溶解度 $\geq 100$ mg/L	-	-	難分解性

K番号	物質名 (CAS No.) 官報公示整理番号	分解性	分配係数 (log Pow)	濃縮度試験	判定結果 (0内は既判定)
2050	ジベンジルアミン (103-49-1) 3-315 9-738 	分解度試験(化審法テストガイドライン:28日間) BOD分解度:0%(-1,-1,-2)(基礎呼吸区6.2mg,汚泥区平均5.1mg) LC-MS分解度:0%(0,-1,0) ①全有機炭素測定装置に不具合があり、DOC分析は機器メンテナンス後に実施している。分析の結果DOC残留率は90%であったことについて、被験物質は構造にアミノ基を有するため、試料保管中に被験物質の吸着等が発生した可能性があると考えられる。 ②対水溶解度 $\geq 100$ mg/L	-	-	難分解性
2032	2-ヘプタン-1-イルシクロペンタン-1-オン (137-03-1) 3-2409 	分解度試験(化審法テストガイドライン:28日間) BOD分解度:92%(93,91,91)(基礎呼吸区4.3mg,汚泥区平均82.0mg) HPLC分解度:100%(100,100,100) ①対水溶解度 $< 100$ mg/L	-	-	良分解性
2035	2-[2-(ヘキサン-1-イルオキシ)エトキシ]エタノール (112-59-4) 7-97 	分解度試験(化審法テストガイドライン:28日間) BOD分解度:91%(96,90,88)(基礎呼吸区9.8mg,汚泥区平均74.3mg) DOC分解度:97%(96,97,97) GC分解度:100%(100,100,100) ①対水溶解度 $\geq 100$ mg/L	-	-	良分解性
2041	3,7-ジメチルオクタン-3-オール (78-69-3) 2-217 	分解度試験(化審法テストガイドライン:28日間) BOD分解度:73%(76,110,33)(基礎呼吸区9.0mg,汚泥区平均75.9mg) GC分解度:100%(100,100,100) ①汚泥区にて被験物質は消失している。 ②BOD値分解度が低い試験液では分解中間物と思われる複数の変化物が残留したが、これらの分解中間物は生分解の進行により消失すると考えられる。 ③対水溶解度 $< 100$ mg/L	-	-	良分解性
2043	1-エトキシプロパン-2-オール (1569-02-4) 2-2424 7-97 	分解度試験(化審法テストガイドライン:28日間) BOD分解度:75%(84,64,76)(基礎呼吸区5.9mg,汚泥区平均53.8mg) DOC分解度:80%(97,62,81) LC-MS分解度:83%(100,65,85) ①汚泥区にて大部分の被験物質は生分解されたが、一部の被験物質は残留している。しかし、培養終了時のBOD曲線が上昇傾向にあることから、残留した被験物質も最終的には生分解すると考えられる。 ②対水溶解度 $\geq 100$ mg/L	-	-	良分解性
2047	2,4-ジメチルペンタン-3-オン (565-80-0) 2-2475 	分解度試験(化審法テストガイドライン:28日間) BOD分解度:104%(109,*,99)(基礎呼吸区10.6mg,汚泥区平均98.1mg) GC分解度:93%(97,94,90) (*異常値と判断されたため棄却) ①試験液[3]のBOD分解度は異常値と判断されたため棄却している。 ②汚泥区にて、被験物質残留率が平均93%となり一部被験物質が残留しているが、28日後のBOD曲線が上昇傾向にあることから、残留した変化物については、その後さらに生分解が進行すると考えられる。 ③対水溶解度 $\geq 100$ mg/L	-	-	良分解性

K番号	物質名 (CAS No.) 官報公示整理番号	分解性	分配係数 (log Pow)	濃縮度試験	判定結果 (0内は既判定)
2051	2-ベンゼンリデンオクタナール (101-86-0) 3-2657 	分解度試験(化審法テストガイドライン:28日間) BOD分解度:87%(87,83,90)(基礎呼吸区7.0mg,汚泥区平均81.8mg) HPLC分解度:99%(100,97,100) ①汚泥区において、試験液3点のうち1点でわずかに被験物質の残留が確認された。培養終了時のBOD曲線が上昇傾向にあることから、残留した被験物質は最終的にはすべて消失すると考えられる。 ②LC-MSによる変化物の定性分析の結果、4成分の変化物が検出されているが、変化物の生成量はごく微量であり、また、検出された変化物は分解中間体であると考えられることから、最終的にはすべて生分解されると考えられる。 ③対水溶解度<100mg/L	-	-	良分解性
1852	2, 2, 3, 3-テトラフルオロ-1-プロパノール (76-37-9) 2-284 	分解度試験(化審法テストガイドライン:28日間) BOD分解度:0%(-22,-22,-20)(基礎呼吸区13mg,汚泥区平均7.6mg) DOC分解度:0%(-2,-1,-1) GC分解度:0%(0,0,0) ①汚泥ブランク系のBOD値が高い理由は、試験液間のばらつきと考えられ、被験物質のTODが25.5mgと小さい値であるために、高い汚泥ブランクのBOD値を差し引いたことにより、分解度が負の値を示したと考えられる。 ②対水溶解度≥100mg/L	分配係数試験 (OECDTG117、HPLC法) 解離性:- 溶離液:pH 5.7 温度:25±1℃ LogPow平均:0.6(0.6,0.6)	-	難分解性 高濃縮性ではない
1853	ジアリル=イソフタレート (1087-21-4) 3-1317 3-1325 3-1329 	分解度試験(化審法テストガイドライン:28日間) BOD分解度:17%(17,18,17)(基礎呼吸区7.5mg,汚泥区平均17.3mg) GC分解度:100%(100,100,100) ①被験物質は1箇所のアリル基がすべて生分解され消失し、3-アリルオキシカルボニル安息香酸が生成した。3-アリルオキシカルボニル安息香酸(変化物)の一部は生分解されたが、大部分は生分解されずに残留した。 ②生成が予想されたアリルアルコール(2-260:良分解性)は生分解したと考えている。 ③イソフタル酸(3-1332:良分解性)については、1試験液でわずかに生成が確認されているが、分解中間体であり、安定な変化物ではないと考えられる。 ④対水溶解度<100mg/L	分配係数試験 (OECDTG117、HPLC法) 解離性:- 溶離液:pH - 温度:25±1℃ LogPow平均:3.3(3.3,3.3)	-	難分解性 高濃縮性ではない
1857	2, 2'-メチレンビス(6-tert-ブチル-4-エチルフェノール) (88-24-4) 4-93 	分解度試験(化審法テストガイドライン:28日間) BOD分解度:0%(0,0,0)(基礎呼吸区7.2mg,汚泥区平均6.9mg) HPLC分解度:0%(0,0,0) ①対水溶解度:0.736 μg/L(カラム溶出法)	-	濃縮度試験(化審法テストガイドライン:28日間) 試験魚種(急性毒性試験:ヒメダカ,濃縮度試験:コイ) 96hLC50値:>3.00mg/L 水槽設定濃度(第1濃度区):0.5 μg/L (第2濃度区):0.05 μg/L 助剤使用:無 BCFss(第1濃度区):840倍 BCFss(第2濃度区):920倍	難分解性 高濃縮性ではない
1859	1-メチルピペラジン (109-01-3) 5-954 	分解度試験(化審法テストガイドライン:28日間) BOD分解度:0%(0,0,-1)(基礎呼吸区4.8mg,汚泥区平均4.4mg) DOC分解度:0%(-3,-2,-2) HPLC分解度:0%(0,1,0) ①対水溶解度≥100mg/L	分配係数試験 (OECDTG117、HPLC法) 解離性: pKa1=4.94,pKa2=9.09 溶離液:pH 10.5 温度:25±1℃ LogPow平均:<0.3 (<0.3,<0.3)	-	難分解性 高濃縮性ではない



K番号	物質名 (CAS No.) 官報公示整理番号	分解性	分配係数 (log Pow)	濃縮度試験	判定結果 0内は既判定
2024	ジメチルナフタレン (28804-88-8) 4-80  $m+n=2$ $m=1 \text{ or } 2$ $n=0 \text{ or } 1$	分解度試験(化審法テストガイドライン:28日間) BOD分解度:0%(-1,-2,-2)(基礎呼吸区10.5mg,汚泥区平均9.1mg) GC分解度(ピーク1):0%(1,-2,-1) GC分解度(ピーク2):0%(1,-2,0) GC分解度(ピーク3):0%(-1,1,-1) ①対水溶解度<100mg/L BOD:-1, -2, -2 (0(-2))	-	濃縮度試験(化審法テストガイドライン:49日間) 試験魚種(急性毒性試験:ヒメダカ, 濃縮度試験:コイ) 96hLC50値:4.59mg/L(助剤使用:HCO-40 約28mg/L,DMSO 約570mg/L) 水槽設定濃度(第1濃度区):0.811 μg/L,(第2濃度区):0.0811 μg/L 助剤使用:有(第1濃度区):HCO-40 5 μg/L,DMSO 25 μg/L (第2濃度区):HCO-40 0.5 μg/L,DMSO 25 μg/L ピーク1 BCFss(第1濃度区):1,400倍,BCFss(第2濃度区):1,600倍 ピーク2 BCFss(第1濃度区):1,900倍,BCFss(第2濃度区):2,100倍 ピーク3 BCFss(第1濃度区):2,300倍,BCFss(第2濃度区):2,400倍 <排泄試験BHL:8日間> ピーク1(第1濃度区):1.5日,(第2濃度区):2.0日 ピーク2(第1濃度区):1.8日,(第2濃度区):2.1日 ピーク3(第1濃度区):1.8日,(第2濃度区):2.1日 <部位別濃縮倍率> ピーク1 頭部(第1濃度区):2,300倍,2,300倍(第2濃度区):1,800倍,1,800倍 内臓部(第1濃度区):1,200倍,1,600倍(第2濃度区):590倍,720倍 可食部(第1濃度区):790倍,950倍(第2濃度区):970倍,1,100倍 外皮(第1濃度区):7,400倍,5,200倍(第2濃度区):4,700倍,3,300倍 ピーク2 頭部(第1濃度区):3,100倍,2,900倍(第2濃度区):2,700倍,2,900倍 内臓部(第1濃度区):10,000倍,6,700倍(第2濃度区):7,600倍,5,200倍 可食部(第1濃度区):1,100倍,1,200倍(第2濃度区):920倍,1,100倍 外皮(第1濃度区):1,600倍,1,900倍(第2濃度区):1,600倍,1,600倍 ピーク3 頭部(第1濃度区):3,500倍,3,500倍(第2濃度区):2,800倍,2,800倍 内臓部(第1濃度区):12,000倍,7,900倍(第2濃度区):8,300倍,5,700倍 可食部(第1濃度区):1,300倍,1,400倍(第2濃度区):970倍,1,200倍 外皮(第1濃度区):2,000倍,2,300倍(第2濃度区):1,600倍,1,800倍 ①対水溶解度:ピーク1 7.29mg/L, ピーク2 8.13mg/L, ピーク3 7.78mg/L(フラスコ法,25℃)	難分解性 高濃縮性ではない
1672	シクロヘキサ-1-エン-1,2-ジカルボキシイミドメチル(1RS)-cis-trans-2,2-ジメチル-3-(2-メチルプロパン-1-エニル)シクロプロパンカルボキシラート(別名 テトラストリン) (7696-12-0) 9-839(優先評価化学物質通し番号:88) 	難分解性(審議済み)	-	濃縮度試験(化審法テストガイドライン:28日間) 試験魚種(急性毒性試験:ヒメダカ, 濃縮度試験:コイ) 96hLC50値:0.205mg/L(助剤使用:HCO-40 約2.1mg/L,メタノール約210mg/L) 水槽設定濃度(第1濃度区):1 μg/L,(第2濃度区):0.1 μg/L 助剤使用:有(第1濃度区):HCO-40 40 μg/L,メタノール 100 μg/L (第2濃度区):HCO-40 4 μg/L,メタノール 100 μg/L BCFss(第1濃度区):30倍,BCF(第2濃度区):19~54倍 ①対水溶解度:1.83mg/L(25℃)	(難分解性) 高濃縮性ではない
1840	4'-クロロ-3-ヒドロキシ-2-ナフトアニリド(別名:アゾイック CC 10) (92-78-4) 5-2279 	難分解性(審議済み)	-	濃縮度試験(化審法テストガイドライン:31日間) 試験魚種(急性毒性試験:ヒメダカ, 濃縮度試験:コイ) 96hLC50値:>1.00mg/L(助剤使用:HCO-20 50倍量,2-トキシエタノール約1,000mg/L) 水槽設定濃度(第1濃度区):1 μg/L,(第2濃度区):0.1 μg/L 助剤使用:有(第1濃度区):Tween80 250 μg/L,2-トキシエタノール 50 μg/L (第2濃度区):Tween80 25 μg/L,2-トキシエタノール 50 μg/L BCF(第1濃度区):33~75倍,BCFss(第2濃度区):140倍 ①対水溶解度:5.51 μg/L(カラム溶出法,25℃)	(難分解性) 高濃縮性ではない



